

6 月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和 7 年 6 月 2 5 日（水）	場 所	市役所本庁 災害対策本部室
開催時間	1 3 時 3 0 分 から 1 5 時 0 0 分まで		
出席者	教育長	高森 賢一	
	教育委員	宮田 靖、久世由美子、甲斐千尋、遠田真央	
	参 与	丸山真二、池田元洋、岩佐正文、佐藤幸恵、岩切隆人、早瀬誠一郎、 吉田尚良、尾方農一、甲斐保孝、柴由美子、岡田健一、田中政秀	

◎ 開 会

高森教育長が開会を宣した。（13 時 30 分）

◎ 会議録の承認

5 月 27 日（火）に開催された 5 月定例教育委員会の会議録が承認された。

◎ 事務報告

◆教育長より以下の業務報告が行われた。

- ・ 宮崎県市町村教育委員会連合会第 1 回理事会、総会
- ・ 中体連地区大会視察
- ・ 第 1 回延岡市教育支援委員会
- ・ 延岡城跡 3 D 復元プロジェクトに関する連携協定に係る成果品贈呈式
- ・ 延岡総合文化センター開館 4 0 周年記念行事、文化祈念シンポジウム
- ・ 浦城小学校オープンスクール
- ・ 南浦中学校学校訪問
- ・ 旭小学校学校訪問

◆教育委員より以下の報告が行われた。

宮田委員） 6 月 21 日から 22 日にかけて、社会教育課の事務報告にも記載されている延岡市子ども会育成連絡協議会の年間行事の 1 つである延岡インリーダークラブの宿泊研修が開催された。その様子を 2 日間見せていただいたので、その感想を少し申し上げたい。参加した子どもたちは小学校 4 年生から 6 年生までの 26 名と、そのお手伝いとして、ジュニアリーダー 7 名の中学生と高校生。2 日間にわたってテント設営や野外炊飯、キ

キャンプファイヤーなど、一連の自然体験活動を通してのプログラムが設定されていたが、大変充実した計画がなされていたなという感じを受けた。7年度の開校式の後の2回目の活動ということだったので、当然学校も異なっているし、初めて一緒に活動する子どもたちも多かったのではないかなあと思う。最終日に5名の子どもたちが振り返りで感想を発表してくれた。自然活動の楽しさとか、中には、自然のすばらしさ、郷土はすごいなということに気づきましたという子どもの感想もあって、大変すごいなと思った。特に、話せなかった友達と話せるようになったとか、友達と仲良く片付けができたといった具合に、友達を意識した感想が非常に多かったという点は、やはりこういったインリーダークラブ活動の1つのいいところではないかなと思ったところである。IT社会の中で子どもたちの生活も大きく変わろうとしているところではあるが、普段一緒に生活していない友達や大人たちとの関わりから学ぶことができるコミュニケーション能力や社会性、そういった子どもの成長を支えていく、こうしたインリーダークラブの活動の意義は大変大きいのではないかなと改めて思ったところである。子どもたちの活動はどうしても学校が中心に見られるところはあるが、こうした生涯学習に繋がっていくような社会教育の場で、自主的に参加している子どもたち、そして、学校ではなかなか見ることができない違った子どもたちの姿が見ることのできるこういった活動という部分を、学校だけではなくて、やはり学校・家庭・地域の中で適正に評価をしてあげるということは、非常に子どもたちの成長にとっては大切なことではないかなと思うし、だんだん衰退していつている子ども会活動への活性化にも広げていくことができるんではないかなあと思ったところである。それともう1点忘れてはいけないのは、今回指導に当たってこられた方々は、役員の方、そして少年団体指導員の方々、そして担当している社会教育課の職員の方たちが関わっていたが、2日間を通して宿泊もあったり、また安全を考慮した中での活動なので、大変気を遣われた指導をされているんだなあという印象があった。そういった体験活動の支援だけではなくて、1つ1つの活動を通しての基本的な生活習慣の育成であったり、そういう細かいところまでの指導をされていて、大変頭の下がる思いがしたところであった。指導員の方々にも話を伺ったが、私たちはこのいろいろな体験活動の機会を、子どもたちに失くしてはいけないという思いと、そういったような体験活動を通して、子どもたちの成長につなげていきたいんですよというような、熱い思いを聞くことができた。やはりこうした縁の下の力持ち的な方々の存在も、広く認めていく必要があるんじゃないかなあと感じたところである。インリーダークラブ活動は月1回計画

されているようだが、年間を通してさらに充実していけるといいのかなと思った。また社会教育課の方にもバックアップをしっかりといただけるといいなと思ったところである。

久世委員) 6月8日に県北少年少女スポーツ大会に役員として参加させていただいた。教育長も言われたように、今子どもたちのスポーツ人口はすごく減っている。50名程度ではあったが、来たら来たで、すごく頑張れる子どもたちが多いので、次回も我々も頑張ろうって思って、私たちの方が元気をいただいたような大会であった。記録もまあまあ出ていたので、本当によかったという感じ。11日には市民水泳大会で、51回目という歴史ある大会なのだが、これを盛り上げようってということで、教育長もアスリートの選手も一緒に、みんなでの話し合いをリモートでやらせていただいた。この大会、51年っていうとかなりの歴史がある。この大会は、子どもたちだけだったら50名ぐらいだが、全体では毎年100名ほどの参加がある。だからそれをもっと増やして、もっと面白く、楽しく、誰でもやれるようになってというのがキャッチフレーズになって、そういうふうなのをみんなが、教育委員会、アスリートタウン推進課とかも、また、松田丈志も来て頑張るってということなので、そういうのもっと盛り上がるっていいなっていうふうに感じた。16日には子ども未来創造機構の会議に参加させていただいたが、みんな本当に一生懸命頑張られて、子どもたちのためについていう頑張りを見させていただいたのがすごく自分にも刺激になったし、よかったなと思う。この子ども未来機構は参加してよかったっていう感じを受けた。それから、県民スポーツ祭が22日にあって、これは新しいプールで大人の人たちが参加するということで、素晴らしい年配の方たちが頑張っていたので、そういうふうなのが見られてすごくよかったと思う。そして昨日旭小学校の学校訪問に行かせていただいて、教育長も一緒であった。スクールワイドPBSって面白いなと、すごいなと思ったのは、褒めて伸ばそうってということ、これは本当に必要。怒って伸ばそうというのはもうなかなか難しい。褒めて伸ばすっていうのは、自分も水泳の指導をしていて、「頑張れよ。いいよ。いいよ。」って言いながら、褒めながら持っていくのを思い出した。学校で興味があったのが、障がいのある子どもたちの授業で料理を作っていたことで、じゃがりこっていうお菓子のようなものを作っていて、こういうことがこの人たちはできるんだって思って、すごく感心して、もう1人の教育委員会職員も、じゃがりこってこんなふうにできるのかって感心されていたので、子どもたちというのはいろんな力を持っているんだなっていうのを感じさせていただいた学校訪問であった。

遠田委員) 16日に学びの多様化学校で、キャリア教育の講師として話をさせてい

ただいた。キャリア教育の講師をやるのが初めてだったんで、ちょっと緊張して、自分の気持ち、言いたいことが伝わるかなと思ったが、最後に感想をもらったとき、伝わったのが分かったんで、ちょっと安心した。内容としては私がサーフィンに出会う前の自分とサーフィンに出会ってから自分の大きな変化とか、自分に自信を持ったこととか、そういうことで人生が大きく変わったっていうのを伝えて、誰でも可能性はあるから、明るく、ワクワクしながら過ごして欲しいなっていう感じの内容で伝えた。思ったのが、人生は人それぞれいろいろあるが、みんな違って当たり前で、それでいいと思っているんで、いろんな人がそういう話を、いろんな子どもたちにしていくと、何か自分に当てはまるような、参考になるような話が聞けたりする可能性があるんで、いろんな職種とかいろんな人生の方が、そういう子どもたちの前で話す機会があると、子どもたちにとっても選択肢もたくさん増えていいんじゃないかなと思った。昨日、私の経営するサーフショップに来たお客さんで、自分でWeb等の仕事をやっている方で、今度AIでアプリを作る講義というか、そういうのを小学生向けにやる予定とのことで、そういう方に協力してもらって、学校とかでやっていったら、興味がある子どもたちは食いつくんじゃないかなと思った。私自身もちょっと興味があって、自分で、例えば自分のお店のポイントカードみたいな感じのアプリを作ったりとか、在庫管理のアプリを作ったりとか、そういうのを結構簡単にAIを使ってできるって言っていたんで、そういうのをちょっと私自身も勉強したいと思ったし、子どもたちも興味がある子がいれば、今後のために習っておくといいんじゃないかなと思った。

甲斐委員) 5月27日は定例教育委員会を欠席して、29日まで東京に行った。自分の口で言うのは大変おこがましいが、今年の春の叙勲で、経済産業省の推薦で、旭日単光章という叙勲を賜った。まず皇居の中に入れたっていうのが非常に感激して、いつもは入って行けないところに入って、天皇に拝謁を賜った。テレビで見る天皇と実物の天皇はもう、ここにおられる人っていうか、神様のようにして見えた。宮中晩餐会の会場である豊明殿っていうところがあるが、そこに入室させてもらって拝謁したが、部屋に入った途端にものすごく香りのよいお香の匂いがして、庶民とは全然違うんだなと、その環境に驚いた。質素だが豪華に作ってある。何もかもが太く大きく。やっぱり日本を象徴する人の住むところだなっていうのを感じた。6月7日に、野口記念館で志村喬さんの「光を託された男」っていう演劇公演があった。友達から誘われて行ったのだが、志村喬さんはお父さんが槇峰鉦山に勤めていて、その関係で関西から引っ越しをされて来たらしい。延岡中学校に3年間いて、この延岡の地で青春時代を過ごされた。「生き

る」っていうのが映画ではこの人の代表作のようだが、「羅生門」とか「七人の侍」などの有名な映画に出ているということで、改めてインターネットで見た。白黒の映画だったが、「生きる」なんていうのは、今、朝ドラでも言われているが、今からどう生きるかっていうのを考えさせられる映画で、自分も 72 歳になったので、これからどう生きるかなと思って、今模索中である。延岡中学校時代の 3 年の間に志村さんが詠んだ句があり、ちょっと心に残っていたんで、その句をちょっと詠ませてもらいたい。「雨は ふるふるしょうしょうと あたごの山はみどりにて 霞のおくにそびえたつ ゆうべの風は 心地よく 蛙の声をきくうちに はや黄昏の影よせぬ」中学校の生徒がこんな句を詠む、ということは、昔の人は皆頭が良くて高尚だったんだなと非常に思った。どこの地区で愛宕山を見て、こんな句が詠めたんだろうと思って想像すると、非常にこの人の奥深さっていうのを知り得た感じがした。

◆各課からの事務報告

- 学校教育課長から、6 月 20 日の学校と不登校児童生徒の通う学校外の学びの場をつなぐ連携協議会や 5 月期の生徒指導に関する状況等について報告があった。

◎) 4 月、5 月にかけての不登校の数の中で、小学校の 1 年生と 2 年生が含まれているかどうか教えていただきたい。年度が変わっての 4 月、5 月に、低学年の 1 年生、2 年生が不登校になっているのかどうか知りたいと思ったので伺いたい。

⇒) 小学校 1、2 年生だけで 10 名いる。

◎) インリーダー研修について、応募状況はどうだったのか、定員オーバーだったのかなど、伺いたい。

⇒) 先ほど A 委員も言われたように、小学校 4 年生から 6 年生を対象として、定員 30 名で例年募集しており、令和 7 年度は 27 名。ちなみに、令和 6 年度、5 年度と遡ると、令和 6 年度が 26 名で、令和 5 年度が 28 名ということで、令和 6 年度よりは 1 名増えたところである。

◎) 先ほどの 1、2 年生の不登校の件について、理由は分かるか。

⇒) 生活のリズムだったり、無気力だとか、そういうものが合わさって、複合型になっている。

◎) その子にとって、学校が楽しくない、魅力がないっていうことなのか。

⇒) 魅力はあって欲しいと思うが、ただ、その魅力が、その子たちに合っているのかっていう部分ではクエスチョンマークがつくケー

スもあると思う。

⇒) 先ほどのA委員の質問の件で、1年生の不登校で報告上がっている人数の中で、30日以上休んでいるのが1名、20日以上休んでいる子が2名、10日台が1名、1桁台が4名、0日が2名。学校からは、早め早めに学校教育課に報告していただいている。ちょっと心配なケース、お子さんも含めてなので、こういうふうに欠席日数の差がある。

◎) この辺が課題だと思うので、多様化学校の考えを他の学校に広げていくっていう取り組みを、多様化学校や大学と連携しながらやっていきたいなと考えている。指標を作ったり、多様化学校に通う子どもたちは何故行けるようになったのかななどを調査し、他の学校でも取り組めるように挑戦していきたい。

◎ 議 事

◆議案第8号 延岡市立図書館協議会委員の委嘱（図書館）

- 図書館長より、現在の延岡市立図書館協議会委員が令和7年6月30日をもって任期満了となるため、新たに令和7年7月1日から令和9年6月30日までの2年間委嘱することについて説明があり、異議なく承認された。

◆議案第9号 延岡市立学校における学校運営協議会委員の委嘱（学校教育課）

- 学校教育課長より、延岡市立学校における学校運営協議会委員の追加について説明が行われ、異議なく承認された。

◆議案第10号 未来へつながる延岡市教育環境づくり検討会議委員（全体検討会議）の委嘱（教育政策課）

- 教育政策課長より、全体検討会議委員のうち、校長会の代表が交代することについて説明が行われ、異議なく承認された。

◆議案第11号 令和7年度延岡市アウトリーチ懇談会委員の委嘱（学校教育課）

- 学校教育課長より、不登校や非行等の問題について研究・協議を行い教育委員会に対する提言・助言等を行う「延岡市アウトリーチ懇談会」の委員の委嘱について説明がなされ、異議なく承認された。

◆議案第12号 延岡市社会教育委員の委嘱（社会教育課）

- 社会教育課長より、令和7年6月から委嘱された延岡市社会教育委員について、追加で1名委嘱することについて説明がなされ、異議なく承認された。

◎ 協議事項

◆民間プールを活用した水泳授業について（教育政策課）

- 教育政策課長より、下記のとおり説明を行ったのち、協議を行った。

○「学校における水泳授業の課題について」、学校の全てのプールにかかる年間の維持費が2千230万円必要で、これに加えて、建て替えや塗装などの工事を進めていくと、今後30年間で約47億円が必要となる。これを1校あたりに換算すると、維持管理費が年間約60万円、施設を建て替えると約1億4千万円で、こうした費用は、実際に使用する児童生徒数に関係なく、学校1校ごとに一律で発生するものである。そのため、たとえ在籍する児童生徒が少ない学校であっても、同じように多くの費用が必要となる。今後、このような費用を捻出し続けることは、財政面においても大きな課題であると考えている。また、この数字は、令和4年度時点の積算なので、昨今の物価高騰を加味すると、更にその経費は膨れ上がるものと考えている。

○屋外プールでの授業については、どうしても天候の影響を受けやすいという現状がある。例えば、雨の日には気温が低くなることが多く、児童生徒の体調への影響が懸念される。また、雷の発生時には、安全面から授業を中止せざるを得ない。一方で、晴天の日でも注意が必要で、強い紫外線による肌への影響や、熱中症のリスクも高まるため、やはり慎重な対応が求められる。このように、天候によるさまざまな要因から、予定通りに授業を行うことが難しい状況が多く見られる。そのため、プールの授業回数を十分に確保することが課題の一つとなっている。

○教職員の業務負担について、現在、教職員が担っている業務の中でも、水泳指導は、大きな負担となっているものと考えている。水泳の授業は、児童生徒の命に関わるものであり、非常に高いレベルの安全管理が求められる。そのため、教職員は常に緊張感を持って指導にあたっており、精神的、身体的な負担も大きいのが現状であると考えている。また、プールの水質管理についても、毎日の水質検査をはじめ、水を清潔に保つための薬剤投入など、多くの作業が必要であり、これらはすべて教職員が行っており、その負担も大きいものと認識している。こうした課題を踏まえ、本市では、民間プールの活用を検討し、民間プールを活用した場合に期待されるメリットを整理した。

○まず一つ目のメリットは、ランニングコストや施設の改修費用の削減が可能となる点である。これにより、民間への委託料と比較しても、全体のコストを抑えることができると考えている。次に二つ目のメリットであるが、室内プールを使用することで、天候の影響を受けずに、年間を通して計画的な授

業が可能になるという点が挙げられる。天候に左右されず、安定した授業の実施が可能となる。三つ目のメリットは、授業の際に専門の民間スタッフと学校職員の両者が関わることで、監視体制や緊急時の対応が、より充実するという点である。また、室内の温度や水温などの管理も適切に行われるため、より安心、安全な教育環境を提供できると考えている。四つ目のメリットは、教職員の大きな負担であるプールの水質管理が不要になることや、水泳の技術指導を専門の民間スタッフに任せることで、子どもたちの泳力をより的確に観察し、上達度を把握することができるという点である。このようなことにより、教職員の負担軽減にもつながると期待している。そして五つ目のメリットは、児童生徒の泳力の向上が図れるということである。専門の民間スタッフの指導により、より効果的な授業が実施されることが期待される。

- このように、多くのメリットが期待されるが、事務局としては、これらのメリットを確実に得ることができるかどうかを確認する必要があると考えているので、令和7年度にモデル校を選定し、実証を進めることとした。
- モデル校の選定方法について、まず1つ目は、プール施設が老朽化している学校を対象としている。施設の維持や安全性の観点から、老朽化したプールをそのまま使用し続けることが難しいと判断される学校を優先している。次に2つ目は、民間プールでの授業を実施するにあたり、授業時間を確保する必要があるため、学校から民間プールまでの移動時間が片道20分以内であることを条件としている。さらに、3つ目として、経済的な面も考慮している。具体的には、今後30年間に於いて、学校プールの建て替えや維持管理費と、民間プールを利用する場合の費用を比較したときに、同程度の費用に収まることを前提としている。この条件にあてはまるのが、およそ250人程度の児童生徒が在籍している学校である。
- 以上の3つの基準をもとに、モデル校を選定し、現在、民間プールでの実証を進めているところである。民間プールでの授業の様子、モデル校の委託先については記載のとおりである。授業の流れとしては、2時間授業を1回として実施しており、授業の時間は約60分を確保することとしている。学校の引率者は、常時2～3名で、配慮の必要な児童生徒がいる場合は管理職や支援員等が加わる。また、授業中の指導者数については、専門の民間スタッフがグループごとに1名ずつ配置されることに加え、学校職員も当然関わるので、監視体制がより充実しているものと考えている。
- 6月10日にNHK宮崎放送局の「てげビビ！」という番組で今回の民間プールの授業の様子についての放送があったが、NHKの取材において、子ども達も先生方も、民間プールを活用した場合に期待しているメリットについて、前向きなコメントをしており、大変うれしく思っているところだが、現

時点で想定している今後の検討課題を説明したい。

- まず一つ目は、民間業者の受け入れ能力についての検討が必要である。現在、一部の学校が民間のプール施設を活用して水泳の授業を行っているが、今後この取り組みをさらに拡大していく場合、民間業者側の人材確保が課題となる可能性がある。昨今の人手不足の影響が背景にある中で、指導にあたる専門の民間スタッフや児童生徒を送迎するバスの運転手など、必要な人材を十分に確保できるかが懸念される。また、現在は、一般のお客さんに迷惑をかけないように、民間プールの開館前の時間帯に授業を実施している。しかし、今後さらに多くの学校が民間プールを利用するようになると、限られた時間帯だけではすべての学校の授業を受け入れることが難しくなる可能性も考えられる。そのため、施設の利用時間についても、検討が必要であると考えている。
- 二つ目は、水泳授業の在り方である。現在、多くの学校では、夏休み前に水泳の授業を実施し、児童生徒に対して泳力の向上や、水の事故を防ぐための安全指導を行っている。これは、児童生徒の命を守るという観点からも非常に重要な取り組みであり、例えば、民間プールを活用する学校であっても、夏休み前に1回は水泳の授業を行うなど、基本的な水泳指導を確実に実施することなどを検討しなければならないと考えている。
- 一方で、学校は、運動会や修学旅行など、年間を通して多くの行事がある。そうした中で、水泳の授業をどのように年間の教育課程に組み込むかは無理のない計画の立て方が求められる。そのためにも、水泳指導の内容や時期について、教育現場の実情を踏まえながら、慎重に検討を進めていくことが重要であると考えている。
- 三つ目は、学校ごとのプール利用形態の整理である。すべての学校が民間プールを活用するのではなく、一部の学校では拠点校方式によって、学校プールを他校と共有するケースも想定している。そのため、どの学校が民間プールを利用し、どの学校が拠点校方式を取るのかといった整理も、今後の重要な検討課題である。
- 最後になるが、現在、モデル校による実証事業を進めているので、この取り組みにより、現場での実際の効果や課題を把握することができると考えている。今後は、この実証事業の結果に加え、児童生徒や学校職員、さらには保護者を対象としたアンケート調査を実施し、多くの意見を伺う予定である。また、民間の事業者とも意見交換や協議を重ねながら、さまざまな立場の声をしっかりと集約し、水泳授業に関する課題にどう対応していくべきかを検討してまいりたい。

◎) 学習指導要領に沿った指導内容で実施されると思うが、事

前の民間業者と学校との打ち合わせはどのような形で行われているのか。

- ⇒) スイミングクラブと契約をする前に業務内容を協議している。学校からは水泳授業計画を作っていただき、スイミングクラブ側にも確認していただきながら、その授業が可能かどうかというところも協議しながら、仕様を固めて契約している。
- ◎) 学習指導要領の内容については、学校がしっかり責任を持って業者に伝えるということになる。
- ⇒) 昨年度市教委事務局で学習指導要領の内容をまとめ、学校と民間業者にそれぞれに配って確認をした。それからまず学校で大きな単元計画をつくり、民間業者とすり合わせをしたところである。本年度に入ってから、学校と民間業者でメールでのやりとりをしながら、細かい1時間ごとの授業計画を立てて、今実施をしていっているというところである。
- ◎) 打ち合わせは、学年主任の先生がするのか、学担が直接にやりとりをするのか。
- ⇒) 学校によっては、体育主任がしている学校もあるし、学年の代表の先生がやっている学校もある。
- ◎) ほとんどがメリットだと思うが、逆にデメリットはあるのか。
- ◎) 学校から片道20分以内っていうのがあるので、20分20分で40分だと、移動で1コマ使ってしまうっていうのはデメリットの一つとしてあげられる。
- ◎) もし建て替えのための予算とかを考えても、それはデメリットになるのか。建て替えるか、民間へ委託するかって考えたときに、そのデメリットがあるために、建て替えを選ぶっていうほどではないということか。
- ◎) 今、私が言った時間のことについては、予算は関係なくて、1時間分を移動で使ってしまうことは、その分授業のコマ数を消費してしまうので、他にちょっとしわ寄せがいくというか、移動時間が増えてしまうと、年間の授業時数の消費するコマ数が増えてしまう。
- ◎) それがデメリットで、建て替えとは別のデメリットがあると。そうであれば、プールの授業をなくすっていう選択肢もあるってということか。
- ◎) そこまでは事務局内では検討していないが、他県ではそういう事例がある。寒い地方とか。中学校では実施しないという自

治体もある。

⇒) 今想定している選定基準の 250 人程度の部分を詳しく説明すると、今 1 人当たり 2,200 円で委託しているが、それを 30 年続けたときに、建て替えたほうが安い学校もある。人数の多い学校は建て替えたほうが安くなるということとなる。また、別のデメリットで、担当者レベルでは、この民間委託時期を例えば 12 月まで延ばしたとき、移動するとき、子どもたちの髪が乾いていないから風邪をひくとか、そういったことも検討しないといけない。それで時間がかかったりだとか、そういったところはデメリットになるというような想像をしているところである。

◎) 市内のどこかに、例えば 2 つぐらい、今無い場所にプールを作って共同で使うとか、そういうのはどうか。

⇒) 想定はしていないが、例えば、市の西部にある学校だったら、今ある西部の学校のプールをその近くの各学校が共同で使う。今、民間プールがあるところまで 20 分以上かかってしまう場所については、そこ辺りの学校が集まって使うようなことを想定している。

◎) その場合は、温水じゃない。冬はできない。

⇒) お見込みのとおり。

◎) プールっていうのは夏だけしかだめだったっていうのが今までの現状。だから、もうそこで雨が降ったり寒かったりなんかしたらもう使えないっていう状態でデメリットの方が多い可能性があると思う。これが今民間で何校かやらしてもらおうっていうことで今計画されていていっているので、それを、今まで通りの水泳の授業は、6、7 月くらい。それを先ほど言われたように、12 月まで延ばすとか、そういうふうにやっていくと、少しずつ軽減されていくんじゃないかっていうのと、髪の毛が乾かないから風邪をひくっていうのは昔の話。今はシャワーも温かいし、ドライヤーがあったりして、みんな子どもたちがシャワーを浴びて、そういうので乾かして帰る。だから、そういうのをちゃんと教えておけば子どもたちはしっかりやれるし、もう少し計画する側の方が頭を柔らかくして、6、7 月だけじゃなくて、もう少しいけるようにして、みんなが使えるようになるといいなど。そこまで考えていくと、ひょっとしたら室内プールができるんじゃないかなと思って、そこでまたそこが 1 軒入ってくれば、また違ってくる。延岡では 2 軒しかない。だから

なかなか難しい。そしてそんなに大きいプールでもないのに、そういう受入れるためのプールじゃなかったのに、なかなか今現状としては、そこにいる指導者は、いつもよりも早めに出てきて、そこで指導をするっていう形で、やっぱり受ける側の方も考慮しているわけである。だから、今は始まったばかりなので、いろんなデメリットがありメリットがあるので、それを出し合って、いいような方向に伸ばしてくれるといいのかなっていう感じはする。

◎) 2,200 円は1ヶ月分なのか、年間分なのか。

⇒) 授業1回当たりである。

◎) 例えば学校の委託先になって、ある程度経営が成り立つんだったら、また建てたりする人が出てきてもおかしくないと思うが、2,200 円というのは高いのか、安いのか。

◎) 温水プールを使ってスイミングに入ろうとしたら安い。そして結局、そこで1回2,200 円で、何回使うかちょっと分からないが、それを計算すると、今までかからなかったものがかかって高くなるって思われるけど、先生たちがそんなに力を入れてやらなくてもいいし、水質とか温度、水温なんかも考えなくてもやれるっていう。この間、ビートスイミングしか聞いていないが、子どもたちがすごく喜んで思い切り伸び伸びと泳いでいる。そしてその中で、子どもたち同士で助け合いをしているところがあると、そういう話を聞いたら、やっぱり、ただこの時期だけ泳ぐっていうんじゃないくて、そういう心の面でも子どもたちが成長していくんじゃないかと。別に水泳をしていたから言うわけではないが、もっともっと泳がせてやってくれるといいのかなと。今始まったばかりだから、もう少し温かい目で見て、お互いが、ここがいい、あれがいいっていうふうに考えてくれるといいなと思う。ところで、黒岩小中学校の子どもたちはすごく泳げるらしい。なぜかっていうと川で泳いでいるっていうことを聞いた。そういうところでまた年間というか、温かいところで泳げるようになると伸び伸びと授業ができるんじゃないかなと思う。

◎) そういったところをモデル事業で検証しながら、また需要が増えていけば、キャパシティも増えていくかもしれない。祇園町のターザンも再開しようと思えばできるらしい。人は必要だが、場所としてはできると聞いている。

◎ その他

◆ フリースクール等民間施設との連携について（学校教育課）

- 学校教育課長から、延岡市フリースクール等民間施設とのガイドラインに基づくフリースクール等民間施設の認定について報告があった。

◆ 7月定例会教育委員会の日程について（教育政策課）

- 7月定例会教育委員会については、7月23日（水）の13時30分から、災害対策本部室で開催する。

◎ 閉会

高森教育長が閉会を宣し、終了した。（15時00分）